

この先生にズームイン



研究は“現物史料主義”

歴史を体感できる史料として、初版本を集めている。写真は上から、ランケの「ローマ・ゲルマン諸民族史」、ブルクハルトの「チチェローネ」「コンスタンティヌス大帝の時代」で、いずれも150年以上前のもの。かつては海外を訪れるたびに古本屋巡りをしていたが、現在はインターネットで購入しており、「便利な時代になった」と喜んでいる。



自宅でも歴史を体感

約3年前から築90年という純和風の家で暮らしている。「前任地の弘前時代に日本家屋の良さを知り、こちらでも毎月のように夫婦で篠山に通って執念で見つけました」。欄間や格子戸などには職人技が光る繊細な細工が施されているという。



語り出すと止まらない時計愛

父親の形見としてオメガの腕時計(写真中央)を譲り受けて以来、機械式時計にはまり、コレクションは30個を超える。とりわけスイスの高級時計メーカー、IWCのファン。「堅牢な作りと、1885年以降の全製品の記録や設計図を残しているのどんなものでも修理に応じるという、出荷した後も責任を持っているところが良いですね」



オークション好きな一面も

歴史的な資料(史料)をオークションで探し出すのが好き。ゲットしたものは歴史学を身近に感じてもらおうと授業などで学生たちに披露することも。ただ、狙いとは別に「高かったでしょう」と懐具合を心配されることもしばしばだと苦笑する。着用しているのはフリーメイソンの正装であるエプロン。

地場産品をリスペクト

「その土地で長い時間の試練に耐えて今に残った技術は素晴らしい」と称賛する地場産品を、日常使っている。写真は播州織と栃木レザーのコラボトートや、1本で2通りのデザインが楽しめるおしゃれな播州織のネクタイ、津軽塗と樺細工のボールペン、学生たちからプレゼントされた姫革細工のペンケース。



先生に質問!

先生のご専門は。

A 近代歴史学の父と呼ばれるランケの弟子の一人、ドイツ系スイスのブルクハルトを中心に研究しています。国家を中心とした同時代の歴史学者とは違い、彼は普通の人たちが当時何を考えていたのかという所にまで目を配っている点が面白く、人々の息遣いが聞こえるような歴史書を書いた人物です。本人の著書を読み解くだけでなく、誰にどんな手紙を書き、大学ではどのような授業を展開していたのか、そして当時何が話題になっていたのかなど彼の生きた時代も含め、さまざまな角度から調べています。

Q デミではZOOMINの指導しているのですか。

A 学習者集団としてみんなが教え合い、刺激し合えるよう、各自が研究した内容を発表するのが基本です。卒論・修論の追い込みの時期になると個人指導に切り替えるのですが、学問で苦しむ最後の機会になるかもしれないのであえて厳しく、細部にわたって指摘し、本人が十分に力を出し切れるまで付き合います。

Q 学生に期待することは。

A 歴史は自分とは関係のないことを記憶する学問だと思われがちですが、実はそうではなく、身の回りのさまざまな物事は歴史と深いつながりがあります。そして、私たちは前の世代から何かをもらって次の世代にパトナタッチする、歴史的な存在でもあるわけです。やがて若い世代を育てる仕事に就く学生たちには、パトンを渡す立場としての自覚を持ちながら子どもたちを見守ってほしいと思います。